

1型自己免疫性膵炎における線維化・癌化を中心とした病態生理の解明に関する研究

1. 研究の対象

1981年10月～2025年3月の間に当院で高知大学(高知医科大学)もしくは関西医科大学にて膵臓の手術(腫瘍形成性膵炎(自己免疫性膵炎、慢性膵炎)、漿液性嚢胞性腫瘍、神経内分泌腫瘍)を受けた方

2. 研究目的・方法

1型自己免疫性膵炎は、1995年に日本から発信された疾患概念ですが病期の仕組みについてはよくわかっていません。自己免疫性膵炎と分かる前は、膵癌と鑑別ができず切除され腫瘍形成性膵炎と診断されていました。現在でも膵癌と鑑別が難しく手術になる症例があります。この病気は、いわゆる慢性膵炎とは違う病気とされてきましたが、10%程度の方は慢性膵炎に移行すること、1%程度の方は長期の経過観察中に膵癌が発症することもわかってきました。

現在では指定難病となっていますが、線維化による胆管狭窄に対しステント留置が重症度判定の項目に含まれています。しかしその線維化そして膵癌の発症機序については、よくわかっていません。そこで切除された膵組織を用いて、1型自己免疫性膵炎の病態生理を解明するために2026年3月31日まで研究を行います。ただし遺伝子に関する検索は行いません。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報:年齢、性別、病歴、血液検査データ、CTもしくはMRIなどの画像データ等

試料:手術で摘出された膵臓

4. 外部への試料・情報の提供

関西医科大学の情報については、個人が特定される情報(氏名、IDなど)を削除し高知大学にCD-Rにて送ります。試料については同じく個人が特定される情報を除き、プレパラートの形で高知大学に送ります。

5. 研究組織

高知大学医学部 消化器内科学 内田一茂

関西医科大学 消化器肝臓内科 池浦 司

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

高知大学、高知医科大学に関係する方
高知県南国市岡豊町小蓮
高知大学医学部 消化器内科学 内田一茂
電話 088-880-2338

関西医科大学に関係する方
大阪府枚方市新町2丁目5番1号
関西医科大学 消化器肝臓内科 池浦 司
電話 072-804-2456

研究責任者:

高知大学医学部 消化器内科学 内田一茂